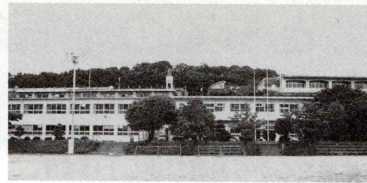


北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会
東京支部会報 第26号
2012年9月30日

同窓・同郷の繋がりを大切に

多治見北高等学校同窓会東京支部 会長 原田 英明 (12 回生)

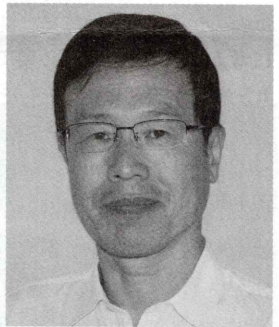
長く暑い夏が去り、ようやく過ごしやすい季節となりました。多治見北高等学校同窓会東京支部会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年11月の総会において、新しく会長に任ぜられました原田です。精一杯相務める所存でございますのでどうぞよろしくお願いたします。

初代会長・鈴木満氏から、愛知紘治氏、前原金一氏、山本康夫氏を経て、私で5人目の会長となります。当会は、1990年4月に準備会を発足、同11月に160名の方々が参加されて第一回総会・懇親会が開催されました。以来、回を重ね、この11月17日には第23回総会・懇親会の開催の運びとなっています。設立時から会則が整備され会報も発行するなど、しっかりした運営がされてきました。総会・懇親会での「フォーラム」は第2回からで、今日まで続いて定着してきています。第3回から担当幹事回生のシステムとなり、今回の担当も「3」の回生ということで三巡目に入ったわけです。思えば設立当時は1回生もまだ40代で現役として最も忙しい時期だったはず。そんな中で東京支部設立にご尽力され、今日まで先頭に立って導いて下さった先輩方には、本当に頭が下がります。

当会の本旨は会員相互の親睦であり、事業としては、名簿の管理、会報の発行、総会の開催を柱としています。名簿は2004年までは印刷物にしていましたが、今日ではデータ管理にとどめ、外部への流出を防ぐこととしています。会報は年一回の発行を続けていますが紙からwebへの移行も視野に入れる段階かも知れません。

そして何より中心となる事業は、やはり年一回の総会・懇親会です。同じ学舎で青春時代を過ごした者同士が世代や社会的なポジションの違いを超えて交流できる場としての同窓会は、今の時代に特に存在意義を増してきていると感じます。私たちは様々な人と人との繋がり、ネットワーク、コミュニティの中で暮らしています。そうした繋がりの中の一つの重要なチャネルとして、同窓あるいは同郷という結びつきもまた大切なものではないでしょうか。異世代、異業種の相互交流、支え合いの場として同窓会を共に盛り上げていきましょう。



何年か参加者数が少ない時期がありましたが、近年徐々に盛り返し、昨年の第22回には、設立総会を除けば最多となる128名の参加者がありました。年々若い世代の参加者も増えてきていますので、まだ参加したことのない方も是非本年の総会・懇親会にご参加ください。既に参加されている方々はもちろん、ご友人たちをお誘い合わせの上ご参加ください。

同郷という意味では、東京岐阜県人会があります。当同窓会前々会長の前原金一氏が副会長を務めておられ、このほどは山本康夫前会長が幹事長の要職に就任されました。その他にも多くの同窓生が参加しています。創立110周年キャンペーンで初年度会費無料となっていますので、こちらにもどうぞ気軽にご参加下さい。

多治見北高等学校同窓会 第22回 東京支部総会・懇親会



昨年11月19日、総会后撮影(昭和女子大にて)

同窓会としての継続的な事業を展開

多治見北高等学校同窓会 会長 酒井 忠造 (5 回生)



東京支部の皆様のご健勝を心からお喜び申し上げます。

日本が活躍したロンドンオリンピック、特に団体競技の充実ぶりが発揮された水泳陣等チームジャパンの組織力に目を見張るものがありました。一方、東日本大震災から一年半、今なお苛まれておられる被災者の方々の悲しみと悔しさはいかばかりか、一日も早く心身の快癒と心の平安の日が来ることを祈って止みません。

大きな傷を負った東日本、そして国民は、あらゆるところで超えていかなければならない試練を与えられました。10年後、20年後、日本はどのような姿に変わっていくのか？ 新しい日本への進化の道を歩むのか、それとも沈みゆく過去の国に成り下がっていくのか、今まさにその分岐点にいると思います。この試練をしっかりと受け止め、日本人らしい生活とは何かを日本人の価値観の見直しとともに考えていくことが、必要ではないでしょうか。もう一度「しっかりと働くこと」「学ぶこと」それに「生きがいを見出すこと」が価値観の見直しには必要ではないでしょうか。

多治見北高同窓会は今年度第 52 回生を同窓会に迎えました。17000 人を超える同窓会となりました。早いもので、第一回生は古稀を迎えられました。創立 50 周年記念事業で造りました「北辰の杜」も順調に成長し、在校生の憩いの場として、利用されているようで、喜ばしい限りであります。50 年前の面影を残しつつ、大変良い環境の中で、生徒たちは勉学に励んでいます。

同窓会今年度の事業について申し上げます。

1. 会報「北辰」は 9 月中には発行できそうです。今年で第 13 号となります。
2. 毎年恒例として行われております、在校生への卒業生による講演会の実施は 10 月 12 日に京都大学総合科学部准教授小木曾哲君 (26 回生) をお願いすることが出来ました。

3. 第 13 回北辰会ゴルフコンペの実施

今年度は 13 回生を中心に幹事をお願いして、9 月 16 日 (日) に愛岐カントリーにて 100 名の参加で実施いたします。

4. 「虎渓山永保持の落ち葉の清掃と懇談会」の開催

これは今回で三回目となります。昨年は約 100 名の参加を得ることが出来ました。同窓会の家族、友人誰でも参加できますので、老若男女入り混じりますが、とてもアットホームな感じで、秋の銀杏の陽に映える姿は素晴らしいものがあります。今年は 11 月 25 日 (日) に開催することになりました。この日に合わせて、地元へお帰りになり、参加されたらといかがでしょうか。

5. 北高各部への支援について

ブラスバンド部が同好会から部に昇格し、楽器の充実が不十分だということで、応援の要請がありましたので、それに応えて金額にして、50 万円を楽器調達資金として提供すること決定いたしました。

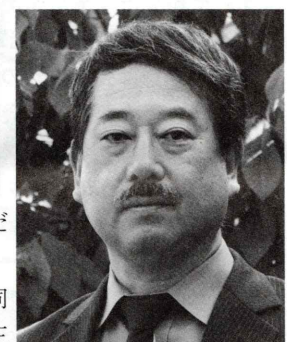
以上、今年度の事業を報告いたしました。何事も継続が大切だと思っております。

同窓会の運営は、皆様からいただく「協力金」で成り立っております。今年度から、東日本大震災被害者への支援金として、日本赤十字社へ 10 年間「協力金」の 5 パーセントを送金することを役員総会で決定いたしました。復興には長期間を要します。昨年は、ゴルフコンペの際に募金を呼び掛け、10 万円を日本赤十字社に送金させていただきました。それに引き続き行おうとするものであります。どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

最後に東京支部の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

関西支部からごあいさつ

多治見北高等学校同窓会関西支部 会長 水野 尚之 (13 回生)



吉田美喜夫先生 (8 回生) からバトンを引き継ぎ、今年度から関西支部の幹事代表を務めさせていただいております。関西支部の会員は現在 220 名で、東京支部に比べてかなり小じんまりしております。ただ、例年 6 月第二日曜日に昼食をはさんで行なわれる総会と懇親会は、関西ならではのノリで、大変賑やかです。

今年度の総会・懇親会 (第 21 回) は、6 月 10 日 (日) 午前 11 時から、新装なった JR 大阪駅近くの「大阪新阪急ホテル」で開かれました。多治見市出身の不世出のピッチャー梶本隆夫氏の弟様・梶本憲史さん (阪急阪神ホテルズ パートナーズ倶楽部理事、ご本人も阪急のピッチャーでした) のお力で、大阪の中心の会場でありながら懇親会費を低く抑えることができました。また、出席者も 39 名となり、以前のような賑やかな会に戻ることができました。これもひとえに、先輩方、事務局の土本美智子さん (13 回生)、会計担当の平木えり子さん (18 回生) をはじめとする会員の皆様が、

積極的に声掛けをし、準備をしてくださったおかげと感謝しております

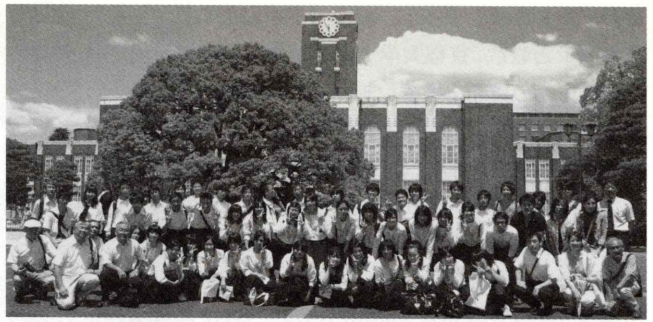
総会には、遠路にもかかわらず同窓会本部から酒井忠造会長、今井正史副会長、そして東京支部からは原田英明会長、前原金一前々会長のご出席を賜りました。また、鈴木康博多治見北高校長、和田修同校教諭、そして松田嘉久同校元教諭という恩師のご臨席を賜り、様々な世代の同窓会員がそれぞれの北高の思い出を共有することができました。ご来賓のどの方々も、ユーモアにあふれたご挨拶によって、関西支部の会員を温かく激励してくださいました。私個人としましては、昨年の懇親会 (神戸・「シーパル須磨」) において恩師の齊藤誠先生から、メタボを直すようにとのお言葉を頂戴しましたので、何とか 6 キロ減量して今回に臨みました。(すぐにリバウンドしましたが。)

今年度の総会においても、記念講演が行なわれました。今回は中津第一歯科院長の伊藤恒一先生(12回生)が、「歯科保険医の内輪話」と題して、歯科保険の仕組みを解説してくださいました。パワーポイントを使っての分かりやすいご説明と、社会的弱者に優しい伊藤先生のお心がしみじみと伝わってくる映像により、会場はしばし感動に沈黙しました。

そして総会が無事終了し、懇親会も大変な盛り上がりのうちに終わった後、斉藤誠先生ご寄贈の同窓会旗とともに、記念撮影を行ないました。



6月10日、関西支部総会・懇親会、大阪新阪急ホテルにて

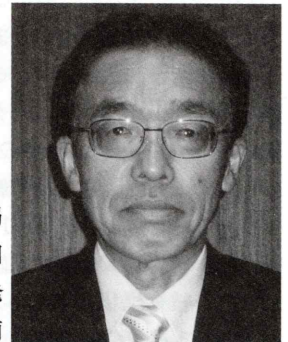


母校からの京都訪問団

また8月4日(土)には、猛暑の中を、多治見北高生・引率の先生・PTAの役員の方々、総勢50名超(!)がバス2台で京都を訪問されました。午前中に京都大学を見学(水野尚之による模擬授業、北高OBによるキャンパス案内など)され、午後には立命館大学(草津キャンパス)を訪問されました。立命館大学はちょうどオープンキャンパスの最中でした。細かなところまで吸収しようとする現役北高生たちの若々しい真剣さ、そして後輩を思う北高OBたちの熱気が、お世話をしてくださった方々に強い印象を与えました。来年は東京の大学へ見学に行かれるそうです。東京支部の皆様、よろしく願いいたします。

次世代を担うリーダーの育成をめざして

岐阜県立多治見北高等学校 校長 鈴木 康博



多治見北高等学校同窓会東京支部同窓生の皆様には、ますますご健勝のことと心からお慶び申し上げます。日頃は母校の発展のために格別なご理解とご支援を賜り心から感謝いたします。

東日本大震災から1年半が過ぎ、ようやく復興の兆しが見られるようになりました。被災された方々に一日も早く平穏な日常に戻りますよう祈念しております。多治見地区におきましても、昨年9月に集中豪雨があり、下校時の生徒の安全確保に腐心しました。こうした状況を受け、本校でも災害緊急時に対応するために防災マニュアルの見直し、防災避難訓練の在り方の検討などを進めています。

本校では、校訓「自主、自律、自学」の精神の下で、生徒一人ひとりが、「文武両道」の充実をめざして学習、部活動、生徒会活動に全力で取り組んでいます。8月29～31日には、生徒会最大の行事である北辰祭が行われました。3年生は演劇、1・2年生は、創意工夫を凝らした展示・演説を行いました。また、PTAの皆さんには食品バザーを企画していただき、盛り上げていただきました。

部活動は、80%に近い生徒が加入して日々練習に励み、東濃地区大会で多くの部が上位入賞を収めています。軟式野球部は、第60回岐阜県高等学校総合体育大会において県準優勝、東海高等学校総合体育大会へ出場し、夏の大会においても県で準優勝して、全国高校軟式野球選手権東海大会へ出場しました。ボクシング部では、河口周悟君がライト・ウェルター級で全国高等学校総合体育大会へ出場するとともに、ぎふ清流国体代表選手としても選ばれました。女子ソフトテニス部は、鳥居菜名さんと川本颯希さん、渡辺史那さんと青木望さんの2ペアが、東海高等学校総合体育大会へ出場しました。文化系部活動では、自然科学部による長年

にわたる「日本一暑い町・多治見の局地気象研究」が認められ、第36回全国高校総合文化祭でその成果を発表しました。放送部では、小椋麻莉子さんが、県学校放送コンテストアナウンス部門で第1位となり、第59回NHK杯全国放送コンテスト及び第36回全国高校総合文化祭に出場しました。また、平成22年度に吹奏楽部が同好会から部に昇格しました。今年度、県吹奏楽コンクール30人以下のB編成コンクールにおいて、銀賞を獲得することができました。毎年、同窓生の皆様から楽器購入のための資金援助をしていただいたおかげで、楽器も徐々に充実し、生徒たちは新しい楽器を手に、熱心に練習に取り組んでいます。

学習面では、生徒一人ひとりに「確かな学力」を育むために、数学と理科で習熟度別指導を行うとともに、進路目標実現のために、早朝補習(北辰講座)、3年生を対象とした放課後補習、土曜講座など様々な学習の場を設定しています。

また、先端科学に触れさせて、研究志向性を高めることを目的とした「多治見北高校サイエンスプロジェクト(TSP)」を立ち上げ、今年で3年目となります。名古屋大学から先生方を招聘し、「素粒子に関する話」、「渋滞学への招待」などの出前講義を実施しています。また、瑞浪市にある岐阜県先端科学技術体験センターでの「DNA鑑定実験」や土岐市にある核融合科学研究所での「プラズマ閉じ込め模擬実験」などを体験させ、科学的な視野を広げさせています。

8月4日には、PTA主催の京都大学見学会を実施しました。その際に本校同窓会関西支部会長水野尚之先生(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)による模擬授業を受け、大学での学

びの一端を体験しました。また、10月12日には、「同窓生による講演会」として、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授小木曾哲先生の講話を拝聴します。大半の生徒が大学へ進学する本校においては、同窓生の方々からこのような形で大学の学びについて触れさせていただくことは大変有益です。

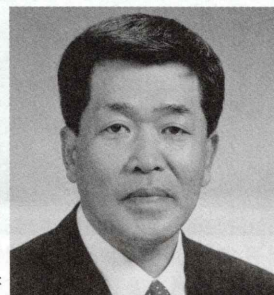
さて、来年度は、新しい学習指導要領に基づく教育課程が、すべての教科において学年進行で実施される高校教育にとって大きな節目の年となります。また、本県では、来年3月から高校入試の機会が一本化されることとなります。さらに、10年先には本格的な生徒減少期を迎えます。このように変化の大きな時代だからこそ、しっかりしたビジョンをもち確かな進路実現ができる学校と

して、一步一步着実に前進したいと考えます。

校訓「自主、自律、自学」は、多治見北高生の目指すべき行動指針となっています。授業、部活動、学校行事等の活動を通して生徒たちにその精神を涵養するとともに、その精神に相応しい人間として成長できるよう、教職員一丸となって指導に当たりたいと考えます。脈々と受け継がれてきた本校の伝統を守りながら、地域や保護者から寄せられる期待にも応えつつ、「自主・自律・自学」を掲げ所として、人間性においても、学力面においても生徒一人ひとりを伸ばし、次世代を担うリーダーとなる人材を育てたいと考えます。教職員一同一丸となって努力する所存ですので、今後とも倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

計画から実行・実現へ

多治見市長 古川 雅典 (11 回生)



計画から実行・実現へ。

机の上で計画を練る段階を経て、計画を具体的に実行・実現していくステージに移ってきました。政策の具体的な「見える化」を行いながら、市民と一緒に様々な政策を実行・実現し、元気なまちづくりを進めています。

まず、企業誘致についてです。トヨタ自動車株式会社の進出が決定している山吹テクノパークが本格的に動き出しました。5月30日にトヨタ自動車株式会社の「多治見サービスセンター」の地鎮祭が行われました。敷地面積約187,000㎡、建築面積約4,400㎡の4階建ての研修棟の建築、1周約1.3kmの走行確認路が整備されます。年間約4,800人が研修する「多治見サービスセンター」は、目覚ましい技術進化に対応するため、国内・海外のトヨタ自動車の人財育成・研究開発の拡充を目的とした施設で、完成予定は平成25年7月です。

8月1日の市制記念日に新多治見市民病院がオープンしました。オープンに先立って行われた7月15日の施設内覧会には、約3,000人の市民が来場されました。市民の新多治見市民病院に対する熱い期待が感じられました。今後も指定管理者である社会医療法人厚生会と協力し、市民の皆様の安全で安心な生活環境を守るために、安定的な地域医療を確保します。

次に、昨年9月の台風15号豪雨災害に対する浸水対策についてです。昨年10月に国・県・市による雨水排水対策協議会を立ち上げ、平成24年3月末には、床上浸水被害の発生を抑止する計

画案を取りまとめました。現在、国に対して脇之島川の改修の役割を担ってもらえるよう、市民の安心安全を守るため、市長自らが先頭に立って国・県への積極的な働きかけを行っております。9月5日には、国土交通省で国土交通大臣に直接面談し、浸水対策の要望を行いました。

本年6月6日より、平成24年度の岐阜県市長会・会長並びに東海市長会・会長を拝命いたしました。従来のような国・県への「おねだり」「お願い」ではなく、国と地方の役割分担の中で具体的かつ実現可能な政策提言・進言を、岐阜県市長会・会長、東海市長会・会長として積極的に行ってまいります。

今年度、多治見市では、市民満足度の向上を目指し、5Sの実践取り組みを行っております。

「整理 (Seiri)」、「整頓 (Seiton)」、「清掃 (Seisou)」による職場環境の改善。また、その環境を維持していくための「清潔 (Seiketsu)」の徹底。そして「躰 (Shitsuke)」による市民満足度の向上。基本に立ち返って、5Sの意識を徹底的に浸透させていくことによって、身の回りの環境改善による業務効率の向上を目指します。また、いつでも気持ち良く「おもてなし」できる高い接客意識で、更なる市民満足度の向上を図ってまいります。

世界の中心でご活躍の皆様には、今後とも、なお一層故郷多治見に元気を送ってくださいますよう、ご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

第67回ぎふ清流国体に向け おもてなし研修をお手伝い

平良 未散 (26 回生)

今年は第67回ぎふ清流国体が9月29日～10月9日、第12回障害者スポーツ大会が10月13日～15日の期間、わが故郷の岐阜県で開催されます(皆様が「北辰」をお読みになる頃には、すでに中盤にさしかかっていることでしょうか)

国体はオリンピックのような熾烈な招致活動はなく順次開催されますが、47都道府県の持ち回りですので、単純に言えば47年に

一度の大きなイベントです。前回は1965年に開催されました。ちなみに以降は2021年まで開催地が決まっているようです。

私は現在、接客を中心とした研修講師として全国のお客様のところへうかがっていますが、2005年「晴れの国おかやま国体」、2006年「のじぎく兵庫国体」の際に、開会式と閉会式を担当する式典アテンダントの方への研修を担当いたしました。スポーツとは無縁の私にとって、国体は知っているものの自分には関わりのないイベントだと思っていましたが、開催までの数ヶ月、何度も現地に行き、基礎研修から直前のリハーサル、兵庫の際には開会式にも立会い、涙が出るような感動を選手、関係者と共有しました。

国体を成功させるため、主担当となる都道府県庁の方々は何年

も前から実施に向かって長い準備をなさいます。岡山国体開催時には、すでに岐阜県庁の国体担当の方が視察にいらっしやっていたそうです。ぎふ清流国体に向けて関係者の皆さんは、開会、閉会の式典が開催されるメイン会場を中心に各競技開催地で、予想される多くの来訪者(80万人以上との予測)を迎え、良い思い出を胸にお帰りいただくこと、また岐阜を訪れてみたいという思いを抱いていたことを目標に、受け入れ準備をなさいています。

今回の国体は、岐阜県内の様々な市町村で競技が繰り広げられます。多治見市では、空手道、軟式高校野球、オリエンテーリング、ドッジビーが、土岐市ではウェイトリフティング、土岐、瑞浪両市ではソフトテニスが開催されますが、運営にあたっては市の職員の方々の陰の活躍なしに成功はありません。

多治見市役所は古川市長の元、「おもてなし日本一のまち」としての行政サービスを目指していらっしやいますが、私は微力ながら昨年からお手伝いをさせていただいております(きっかけは多北東京支部同窓会でのわずかな会話でした)。多治見市役所には



多治見市での研修にて

多北のOB、OGの方も多く、研修の際は使命感と緊張感でいっぱいでしたが、皆様、暖かく迎えてくださいました。

今年は国体開催にあたり、県内外から多くの方がお越しになり、「おもてなし日本一」を広くアピールするには絶好の機会であることから、運営のサポートをなさる職員約200名の方に対して「おもてなし研修」を9月に実施することになり、光栄にも故郷で開催されるスポーツの祭典のお手伝いが間接的にできることとなりました。

横に修道院、後ろに虎溪山永保寺、眼下に土岐川が望める素晴らしい環境の中で高校3年間を過ごしましたが、離れてみて初めて故郷の美しさを感じています。多治見市は「暑い」ことで一気に知名度が上がりましたが、まだまだ岐阜県出身といっても場所さえ、ご存知でない方が多く、魅力の共有ができないことを残念に思うことが度々です。

国体というイベントにより東濃地方にお越しになった多くのお客様が、『また訪れてみたい・・・』とってくださいるような機会になること、地元がますます活気付くキッカケとなることを心から願っています。

第3回 8回生学年同窓会開催

—8月11日、名古屋にて—

可児 重明(8回生)

我々8回生は、昭和40年に入学、卒業は、同43年組である。時代背景としては所謂「3丁目の夕日」、つまり高度成長を成し遂げた時代後、東京オリンピックが開催された翌年の入学ということになる。そして今年「ぎふ清流国体」開催されるが、我々が入学した年は、岐阜県で初めて国体が開催された年でもあった。1年生時は、1~3組が男子クラス、4~7組が、男女混合クラス。2~3年になって、やっと、混合クラスになった。

今年は、ロンドンでのオリンピックイヤー、今年、第3回目「多北高8回生学年同窓会」が、8月11日(土)、名古屋駅新幹線出口前の「名鉄グラウンドホテル」で開催され、出欠の案内通知がこの6月中旬に届いたが、私自身またまた、都合が取れず残念年ら欠席。結局一度も出席できていない。出席と校歌斉唱指揮を依頼され、即引受けたが、直前になって都合がつかなくなった。今回の「リオ」オリンピックイヤーに、次回の「多北高8回生学年同

窓会」を開催予定。更にその次は、もしかしたら、第2回目「東京オリンピック」が開催される年になるかもしれない。その頃の年齢で言えば、我々は、71歳を迎えることになる。生きて、皆に逢えるかどうか・・・。

我々の時代は、1クラス約50名、7クラスあったことから、350名に対し、案内ハガキを郵送したことになる。出席者は、約70名(だったとか) / 約350名として、約1/5の出席率となる。ちなみに、前回は、約150名、つまり、参加者は半減した。訃報もあった。ご本人や親御さんの不幸話を聞く年齢になった。謹んで、お悔み申し上げます。

今回は、首都圏から、約5~6名の出席。前回同様、殆どが、地元からの出席だったようだ。

我々8回生は、首都圏でも、今年初めて、首都圏在住者同期会を「新年会」として立ち上げた。場所は、「日本橋」だった。20数名/40数名と、こちらは、何と5割の出席率だった。今後も新年会を兼ね、年1回開催していこうとしている。何れにしても、幹事団の皆様、裏方さんで、大変お疲れ様でした。他の回生の方々も、10年に1回役割が回ってくる幹事団結成のため、ご検討されてはどうでしょうか?



8回生同窓会の様子(8月11日、名鉄グラウンドホテル)
小原久氏(8回生)撮影

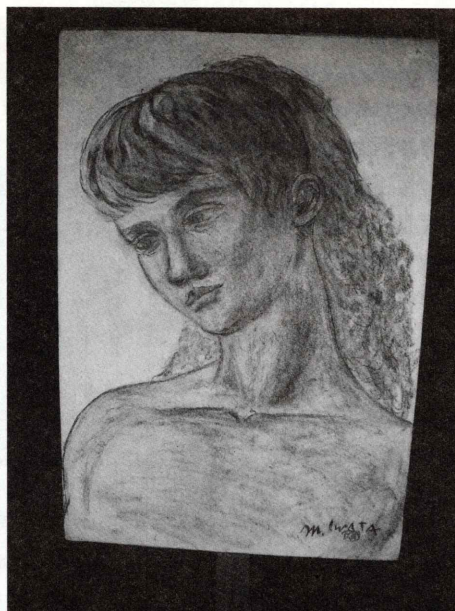
雪洞祭り (鎌倉鶴ヶ岡八幡宮) にて

可児 重明 (8 回生)

「立秋」の翌日 (8/8)、岩田 実先輩 (7 回生 彫刻家) ご在住の鎌倉、鶴ヶ岡八幡宮境内で開催された雪洞 (ほんぼり) 祭りに出掛けた。夕刻 17 時丁度頃に、「鎌倉」駅に到着、「若宮大通り」を歩き、早速鶴ヶ岡八幡宮に向かった。

結局到着した夕刻と夜の 2 回、鶴ヶ岡八幡宮に足を向けた。夕刻も夜も、それぞれに風情があった。「太鼓橋」麓の池には、蓮の花が競い合うように咲いていて、見事な美しさを醸し出していた。一方で、蝉の鳴き声が、過ぎ去ろうとしている夏を惜しむかの様に、煩いほど聞こえてきた。両参道沿いに数々並べられた数々並べられた雪洞には、浮世絵? 日本画? 漫画? CG? 等が見事に描かれ、自筆で好きな言葉や川柳等が書かれ、提供者の氏名は、夫々の雪洞を支えて立たせていた木製棒の手前に書かれていた。何名の方が提供者だったか、だいたいの記憶では、1000 個と見做せた。

小生が幼少の頃、当時の可児郡可児町内の実家近くの河川沿いでも、「灯籠 (行列) 祭り」があり、毎年の夏 (旧盆の頃) の風物詩であった。思い出され、重なった。父も風流人で、見事な絵を描き、意味深な川柳や俳句を筆でも書いた。今は、そのような古き良き時代ではない。都会では、各町内会主催でこの時期、盆踊りが開催される。岩田 実先輩ご提供の雪洞 (女性デッサン) も



岩田氏の雪洞 (奥様撮影)

2 回 (夕刻 & 夜) に亘って、拝見した。とにかく、「雪洞祭り」「灯籠祭り」は、日本独特の文化で、全てが圧巻、圧倒され放しだった。今ではすっかり姿を無くそうとしている、日本古来の種々様々な風物詩に、海外からも多くの観光客の姿があった。カメラや携帯を手にした年配者、夫婦連れ、お友達、浴衣姿の若いカップルと、会場を訪れた人たちも、多種彩々だった。

シンガポール雑感 (シンガポールでの起業から一年)

福田 正孝 (17 回生)



シンガポールの高層ビル街

昨年 6 月、大学卒業以来 28 年間務めた船会社を退職し、同 9 月、台湾の船会社とジョイントでシンガポールに会社を設立しました。

シンガポールは太平洋とインド洋の中継点に位置し、古くから海上交通の要所として栄えた、我々海運界の人間にとっては非常に馴染みの深い国です。またペルシャ湾、欧州、アフリカの間を行き来する殆どの船舶がここシンガポールを通過するため、燃料の補給や船舶の修理の基地として、以前から日本始め各国の船会社が支店や駐在員事務所を開設していました。更にここ 10 年ほどで、シンガポール政府の推し進める海運優遇税制により、現地法人を構える外国の船会社がどんどん増え、今やシンガポールはアジア

の海運の中心としての地位を確立しつつあります。

このシンガポールに於ける海運の情報力と優遇税制というメリットを活用するため、昨年 9 月に会社を設立しましたが、設立準備から事務所の開設までの初期の一連の作業はスムーズに進み、ほぼ三カ月で終了しました。そして今は設立当初の慌ただしさを抜け出し、少し落ち着いて次のステップを考えられる状況になって来ました。将来的には船舶の所有を考えておりますが、海運は市況産業で船舶の価格もその市況に大きく左右されます。そして今台湾のパートナーとともに、その船舶の所有のタイミングを図っているところです。

シンガポールの生活は暑さ (多治見の夏程ではありませんが) に慣れてしまえば、街も奇麗に整備され、地下鉄やバス網等の交通網も充実しており非常に便利で快適です。またシンガポールは共働きが一般的なため食事をする場所が数多くあり、庶民的なフードコートから高級料理レストランに至るまで、いろいろな料理を味わう



シンガポールのオフィスにて

ことができます。そのシンガポールの味について少し説明しますと、シンガポールは中国系、マレー系、インド系を主とした多民族国家で、中華を中心に、インド、マレー等の料理を味わうことができます。只その味が微妙にハーモナイズしており、人によって好き嫌いが分かれるようです。個人的には台湾の生活が長かったせいか、シンガポールの中華は少々味が濃い感じがします。

多民族国家と言えばシンガポールの公用語は英語ですが、料理以上に英語が中国語とマレー語にハーモナイズしており難解です。私自身が批判できるほどに英語が上手い訳ではありませんが、いわゆる Singlish (シングリッシュ) と呼ばれる彼らの英語を聞く時、未だに良く理解出来ないことがあります。またシンガポール人はこの Singlish を普通の英語と勘違いしているのです、これが少々厄介です。私自身もタクシーで行き先を言うと、「こいつ、英語が下手だな」という顔をされますし、先日知り合いのイギリス人と食事に行った際に、英語でオーダーをしているイギリス人に、店員が「英

語を話して下さい」と Singlish で一言。一方最近その Singlish 以外に Hindulish (ヒンズリッシュ) を話すインド人の存在を知り、多民族国家の奥深さ(?)を再認識したところです。

シンガポールは移民を奨励し外国の企業を積極的に誘致しています。これは土地も小さく(ほぼ淡路島と同じ)、水、電力、食糧の生活基盤の資源を隣国マレーシアに頼っている国の知恵だと思いますが、その結果アジアでも有数の近代都市国家を作ってきました。またシンガポールは東南アジアと南アジアの中継点にあり、ASEAN 諸国やインドへのアクセスも便利な環境です。今後シンガポールはこの地理的条件を生かし、またコンパクト故の機敏性と柔軟性を持って、ASEAN のリーダーの一角としての地位を維持していくのではないのでしょうか。資源も土地もない居留者 500 万程度のこの国の一人あたりの GDP は既に日本を抜いており、我々日本人にとってもこの熱帯の小さな多民族国家から学ぶことはまだまだ沢山ありそうです。

第 22 回総会・懇親会 多数の参加で盛大に開催 新会長・副会長を選出

昨年の第 22 回多治見北高校同窓会東京支部総会・懇親会は、11 月 19 日(土)、昭和女子大学本部館会議室を会場に開催されました。幹事は 2、12、22、32 の回生が担当し、12、22 回生が中心となって運営しました。参加者が近年では最多の 128 名を数え、大いに盛り上がりました。

総会では事業報告、監査報告に続いて役員改選議案が諮られ、新会長・副会長の選出が行われました。新たに選出された会長・副会長は以下の通りです。

会長：原田英明(12)、副会長：渡辺啓一(12)、愛知正人(13)、水野輝彦(13)、鈴木淳平(17)、奥村真悟(18)、村上満美(36)(順不同、敬称略、括弧内は回生)

総会の後のフォーラムが当会の恒例ですが、この日は 22 回生の小栗康之氏(22 回生・東京新聞政治部次長)を迎え、「政治部記者はなぜ忌み嫌われるのか—政治報道の現状と今後」と題する講演をしていただきました。内容はオフレコの話が多くなかなか紹介できませんが、政治報道に対する氏の疑問や問題意識も混ぜながらの興味深いお話でした。

懇親会では、本部会長の酒井忠造氏、母校校長鈴木康博氏、関西支部会長水野尚之氏、多治見市長代理小玉淳秘書などからご挨拶を頂きました。そのほか来賓として恩師の松田嘉久先生、石井新太郎先生、藤滝愼一先生、渡辺謙太郎先生、さらに東濃会(東濃地域高校同窓会交流会)から恵那高東京同窓会=城陵



フォーラムの様子

会会長、瑞浪高校首都圏同窓会会長らをお迎えいたしました。

今回は若い人たちの参加が多く、特に 20 回生代の参加が目立ちました。さらにその下の回生も多かったようです。



懇親会で乾杯

東濃地区同窓会で交流

東濃会(東濃地区高校 6 校の東京同窓会代表の交流会)を年 2 回の食事会として開催し、同時に、それぞれの総会・懇親会への相互参加による交流を進めています。

このところでは当会と恵那高および瑞浪高との間で首都圏同窓会総会・懇親会へ相互参加しています。



5月26日
恵那高城陵祭
(恵那高東京同窓会)
ホテルグランパシ
フィック LE DAIBA
(会場)



6月16日
瑞浪高校
首都圏同窓会
総会・懇親会
学生会館(神保町)

第23回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素から支部運営にご協力いただき厚く御礼申し上げます。さて、本年は東京支部総会および懇親会を下記の通り、場所を銀座に移して開催します。ご家族のご同伴にも配慮させていただきます。まだ手が離せない小さいお子様をお持ちの同窓生の方、日頃忙しくてなかなか交友を広げる場に参加する機会がないという方も、この機会を是非ご利用下さい。ここでの繋がりが仕事や生活を一層充実したものにしてくれるかもしれません。お知り合いの同窓生もお誘い合わせの上、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（3、13、23回生）

記

日時：平成24年11月17日（土曜日） 午後2時～6時（1時30分開場）

会場：ホテル銀座ラフィナート 東京都中央区銀座1-26-1 電話03-3561-0777パーティー・宴会場 直通
<プログラム>

- ・総会：午後2時00分～2：30分（於：日光の間）
- ・フォーラム：午後2時50分～3：40分（於：日光の間）講師 マーサ☆リノイエ（三輪裕美子）

講師プロフィール：【みわ・ゆみこ】（13回生）桐朋学園大学短期大学部演劇科8期在学中にポップスグループのメンバーとして歌手デビュー。山口百恵さんのバックコーラス&ダンサーズ等も経験した。グループ解散後、女優活動（劇団音楽座・加藤健一事務所等）の中で長唄三味線と出会う。2006年、マーサ☆リノイエとして「ポップ三味線」の演奏活動を展開。
演題：「三味線音楽の多様性と可能性について」
ポップ三味線とは、長唄三味線を軸に、端唄・民謡・歌謡曲・Rock・じょんがら・ベンチャーズ、ジャンルを越えた唄と三味線の演奏とお喋りの総称です。演題の体現をお楽しみください。

- ・懇親会：午後4時00分～6：00分（於：松風の間）
- ・懇親会費 一般6,000円、35回生以降卒業生3,000円、学生1,000円（新卒業生は無料）、
同伴家族3,000円（但し小学生以下無料）
- ・年会費 一般 2,000円 学生 0円
- ・現段階で参加をご予定いただいている恩師は以下のとおりです。
鈴木康博多治見北高校長先生、松田嘉久先生、杉山仁先生ほか

会場へのアクセス

地下鉄

都営浅草線：

宝町駅（A1番出口より徒歩3分）
東銀座駅（2番または1番出口より徒歩5分）

銀座線：

京橋駅（2番出口より徒歩5分）
※現在、京橋2番出口は工事のため1番出口をご利用ください。

銀座駅（A13番出口より徒歩7分）

有楽町線：

銀座一丁目駅（7番出口より徒歩5分）
新富町駅（2番出口より徒歩5分）

日比谷線：

八丁堀駅（A1番出口またはA2番出口より徒歩6分）

JR

東京駅（徒歩15分）、有楽町駅（徒歩10分）、
京葉線八丁堀駅（徒歩7分）



編集委員 愛知正人（13回生）、原田英明（12回生）

<ホームページアドレス> <http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス> info_hokushin@tajimikita-tyo.com